



「見たり、聞いたり、探ったり」No.315

通算 No.466

青 木 行 雄

元内閣総理大臣

「村山富市、お別れの会」に招待を受けて

(2026年4月20日(月) ホテルニューオータニ・芙蓉の間)

2025年10月17日午前11時28分、家族に見守られながら故郷、大分市内の病院で永眠、101歳の大往生であった。正二位大勲位菊花大綬章が現総理の高市早苗氏から贈られた。

同じ大分県人として任期中は首相官邸に2度招待を受け、総理新年祝賀会には多くの首脳陣が官邸に集まり、豊の国大分の食材にて、祝福の歓迎を受けた。あの長い眉毛での笑顔は今でも忘れられない。

村山内閣、任期中は試練と緊張の連続であったと思われるが、2～3の成果も残している。

韓国、東南アジア諸国の訪問では、植民地支配や戦争の歴史認識について、謝罪と反省の上に立って外交を考え共有と理解をはかった。中国の江沢民国家主席とも会談を重ね理解を深めたほか、ベトナムからは日本の現職首相として初めての訪問であったことや、ベトナム戦争における枯葉剤被害支援など政界引退後の活動を含め高い評価を受けたと言う。

1995(平成7年)年1月17日には阪神淡路大震災に見舞われ、初期対応の批判を受けたが、当時は体制そのものがぜい弱で「必要なことは全部やってくれ、責任は私が取る」と各方面に指示している。

戦後補償の一環として従軍慰安問題に対しては「女性のためのアジア平和国民基金」を設立、8月15日には「戦後50年にあたっての首相談話」を発表した。

政界が大きな時代のうねりの中
※平成5年(1993)8月社民党を含む細



私の若い頃、何回か一緒に同席した時の写真、平成6年6月から総理に就任。



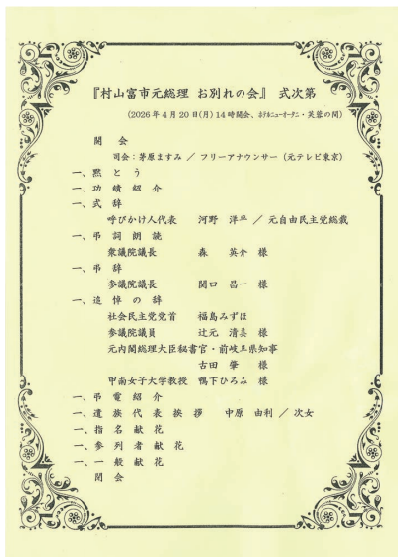
新年の挨拶に首相官邸でいただいた一合マス。100個程の中から出て来ました。



村山富市首相になって、いただいた色紙です。



首相になってからお会いし、いただいた30年程前の名刺が出て来ました。



ホテルニューオータニでお別れの会があり高市早苗首相を始め、450人程が参列した。



花にかこまれた祭壇、笑顔の村山富市元首相。



閉会し出て来る人へのお見送りに並ぶ、関係者、遺族代表次女の中原由利様。



祭壇に向った参列している参加者、一番前列に高市早苗首相や麻生氏等の首脳が参列していた。

川護熙連立内閣が誕生、約9ヶ月で辞職。

※平成6年(1994)4月に羽田孜連立政権に移行するが2ヶ月で総辞職。

※平成6年(1994)6月に村山富市内閣(連立政権)誕生する。

連立の三党首、自民党総裁の河野洋平、新党さきがけ代表の武村正義と連立。

村山首相は初めての記者会見で「強い国より優しい国をめざす」と明した。

※平成7年(1995)1月17日に阪神淡路大震災に見舞われ、初期対応の批判を受けた。

※平成8年(1996)1月5日退陣を表明。後、社会党は党名を「社会民主党」に変更、初代党首となる。

※平成12年(2000)6月2日に衆議院が解散され国会議員も引退したが多くの役職や名誉職に就任、精力的に活動を続けた。



令和7年10月17日高市早苗総理よりの勲章が贈られた。



勲章の額です。

晩年の日常は書道に親しみ、自宅周辺をよく散歩し、折に触れてテレビなどの取材も受けたようである。とにかく温厚で庶民的な人柄と長い特徴的な眉毛の人気もあって、笑顔で晩年を送られたようである。